

朝鮮郵船會社

3-2095

0087

受 7594 號

大正拾年參月拾日 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

拓一第六一六號

大正十年三月九日

拓殖局長官古賀廉造



外務次官埴原正直殿

鎮南浦大連間定期航路開始ニ關スル

請願ノ件

大正十年三月二日通一送第三八號ヲ以テ御照會相成候首題ノ件ニ關シテハ從來屢々請願有之候己ナラス大正八

拓殖局

年ニ建議案トシテ議會ニ提出院議可決セラレタル次第モ有之風ニ其ノ必要ヲ認ムル所ニシテ朝鮮總督府ニ於テハ當時朝鮮郵船會社ニ於テ開始ノ豫定アリタル仁川大連青島線ノ船舶ヲ鎮南浦及新義州ヘ寄港セシメ其ノ寄港補助トシテ四萬三千二百四十圓ヲ大正九年度豫算ニ計上セシモ議會解散ノ為豫算不成立トナリ更ニ大正十年度豫算編成ニ當リテ仁川芝罘線（荷、鎮南浦、新義州、大連、芝罘、青島、仁川間ノ廻航）及仁川大連線ノ二線ヲ開始スルノ計畫、下ニ該航路補助額八万九千餘圓ヲ計上スルキ豫定ノ處公府財政上ノ都合ニ依リ遂ニ豫算ニ計上セザリシ趣ニ有之候得右對支航運ノ施設方ニ就テハ鎮南浦商業會

陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

議所ノミナラス滿鮮商業會議所聯合會等ヨリノ要望モ有
之候ニ付大正十一年度豫算ニ計上シ其ノ成立ヲ期スヘキ筈
有之候由ニ付御了知相成度御参考迄此段申進
候

拓殖局

皇清國正統十一年

門9
6
3
11

文書課長

朝鮮汽船株式會社
朝鮮郵船株式會社

大正十三年三月十日 日附

桂

大正十三年五月廿三日 日附

送第

號

主任

主管 通商

通商局長

鎮南浦商會議事會頭
馬場嘉花宛

鎮南浦大連間定期航路開

候ニ関スル往願ノ件

外務省

本件ニ関シ各月二十二日附鎮南浦
第一。三号ヲ以テ御請願ノ次第有
之候ニ付早速関係官局ニ對シ寫
ト協議致置キ交從未首題ノ件
ニ関シテハ屢々請願有^リ未償已ナラス
大正八年ニ建議案トシテ議會ニ提出シ
院議可決セラレタル次第有之候ニ其
ノ必要ヲ認メ朝鮮總督府ニ於テハ

時報鮮報船會社ニ於テ開始ノ
 豫定アリタル仁川大連吉島線ノ
 船船ヲ鎮南浦及新義州ノ寄港セ
 コメ其ノ寄港補助トシテ四萬三千
 二百四十圓ヲ大正九年度豫算ニ計上
 セルモ該會解散ノ為豫算不成立ト
 ナリ更ニ大正十年度豫算編成ニ當リ
 テハ仁川芝罘線（仁川、鎮南浦、新義州大連）
芝罘、仁川間、週航
 外務省
 及仁川大連線ノ二線ヲ開始スルノ
 計畫ノ下ニ該航路補助額八万八千
 九百餘圓ヲ計上ス（予定）（予定）又全府
 財政上ノ都合ニ依リ遂ニ豫算ニ計上
 セサリシ趣ニ有之候得共右對支航
 運ノ施設方ニ就テハ鎮南浦芝罘會
 議所ノミナラス滿鮮商業會議下聯
 會等ヨリノ要望モ有之候ニ付大

三十二年玄帝集ニ計上レ其ノ成立
ヲ期ス(干筆)有未成由ニ付右
様ヨリテ考案成ノ中事考案
御中

外務省

3-2095

0092

亞細亞局
文
通商公報
通信省

通商公報
大正 11 年
第 940 號
本文

館事領本日果

普通
第 1153 號

附屬書類添付
監理課

公第 六三號

綴込名

添付

大正十一年四月二十四日

在芝罘

領事内山清

領事印

外務大臣伯爵内田康哉殿

大正十二年五月拾九日記録係接受

朝鮮郵船會社、芝罘航路

開始ニ關スル件

本件ニ關シ別紙ノ通及報告候間御

査閱相成度此般申進候 敬具

(大正小林文七五印行)

3-2095

0093

速報

了

朝鮮郵船會社ノ芝罘航路開始

朝鮮郵船株式會社(在仁川)芝罘間航路ハ從來江
 原丸(自由航路船)總數七七二噸、四回ニシテ大正三年十月
 二十日航路ヲ開始ス。一隻ノミナリシカ、今回第五隻盛丸(總
 噸數二〇八噸)ヲ朝鮮總督府ノ命令航路船トシ
 十月十二日ヨリ左記航路ヲ開始スリ

一 寄航地 仁川 鎮南浦 新義州 芝罘 大連 青島
 一 寄港 仁川 每月二回、定期トス
 一 積荷 口一宜ニ法ルカ、且目下ノ處當芝罘ヲ朝鮮
 大連及青島ニ仕向ケルルモノハ支那雜
 貨、野茶、魚、鰯等ナリ

在芝罘日本領事館

一 旅客 口一、二、三、四等ノ旅客ヲ取扱フ。乗客中身モ
 多クキ、支那若カニシテ日、韓人比較的ナレ

一 代理店 口當地支那商會及記輪船株式會社有限總公
 司、朝鮮郵船會社ノ代理店トシテ前記
 寄港船ノ出入港其他ニ關ス一切ノ事
 務ヲ取扱ヒ居リ

ナカト

(大連小森堂七文印行)

